

私は 2002 年から 2004 年にかけて、バハ・ベラパス県プルラ市役所配属の村落開発普及員として活動しました。任地は市街から離れた山中のパンサルという村で、電気や水道、電話も公共交通機関も通っていない「陸の孤島」のような僻地でした。村人の大半はコーヒー農園のわずかな日雇い労働収入を頼りに貧しい暮らしを送っていて、乳幼児や母親の栄養不良も大きな課題とされていました。

私の任務はもう 1 人の栄養士隊員と協力してこれらの課題に対する村の人々の取り組みを支援することでした。収入向上に向けては、村の男性グループをサポートし、養蜂や養鶏などの技術習得や導入のための活動と一緒に取り組みました。この他、村の保健所や学校とも協力しながら、乳幼児の健康診断、栄養指導や調理実習、小学校での保健衛生指導や性教育、進学支援のための奨学金支給など、とにかく自分の力が及ぶ範囲で様々な活動を行いました。

今振り返っても、結果的にそれが現地の課題の解決にどれほど役立つことが出来たのかわかりません。多くの隊員が経験するように、様々な苦労や悩みもありました。ただ、村の人たちは大人から子どもまで皆、外国人である私を温かく笑顔で受け入れてくれ、任地を去るときには「よく頑張ってくれた、ありがとう」という言葉を口々にかけてくれました。本当に思い出深く、何にも代えがたい時間と経験を与えてもらったことに、心から感謝しています。

この時の経験が原点となり、私は現在も開発コンサルタントとして国際協力の世界で活動を続けています。今年からは西アフリカのナイジェリアで、隊員時代と同様、栄養と農業収入の改善支援を活動の柱とする JICA プロジェクトに総括という立場で従事させていただいています。グアテマラの現場で得た経験と学びを十二分に活かして、本当に効果的な協力が実現できるよう、真摯に力を尽くしていきたいと思っています。

